

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707
E-mail kohitsuji@imix.or.jp
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松義人
印刷所：SRS株式会社
定 価：一部 30円

2012年1月20日
第 345号

アンサンブル江之島での実践
協働による

障がい者福祉の展開
理事長 稲松義人

社会福祉法人小羊学園が、小羊デイケアホームから地域を分けて浜松市の南エリアで、通所施設「マルカート」をはじめ7年目になる。これに合わせ、浜松特別支援学校の子どもたちを対象にした放課後支援事業「ドルチェ」に取り組み、その後政令指定都市になった浜松市から南区を主な対象地域として委託された相談支援事業所「アグネスみなみ」が加わり、今は南区内で三つの事業を運営している。

私は、小羊学園児童寮・青年寮が全面改築し移転した施設「三方原スクエア」が竣工したあと、理事長を兼務しながら、この南区内での三つの事業の管理者をしている。理事会・評議員会では、理事長は小羊学園の基幹となる施設に在るべきではないかという意見も多かったが、日常的な連絡体制には十分配慮するというので、北区にある自宅から車で片道50分を通勤するようになった。もうすぐ丸3年になる。マルカートのような通所施設を利用して人たちの保護者の間では、将来のために生活を支援してくれる施設が欲しい、入所施設が難しいのならばケアホームが欲しい、ショートステイ

ができる場所が欲しいなどの要望が以前から強かった。浜松市の障がい者施設、特に入所施設は市の北部に偏在しており、特に南エリアにあっては、必要な機能をもった様々な種類の施設を市内に適正に分散して配置してほしい、利用しやすい場所につくってほしいという願いは切実である。マルカートでは保護者会の有志が「ケアホーム準備会」というグループをつくり、具体的な準備を進めたいという動きも見られた。そして、試行錯誤もあり予定より1年遅れたが、来年度小羊学園でマルカートの近くにケアホームを建築する計画が進んでいる。

しかし、私が南エリアを直接担当しようと思ったのはそのためだけではない。南エリアの三つの事業は、アンサンブル江之島という浜松市の建物の一部をお借りして運営している。このアンサンブル江之島は、もともと「サンビーチ浜松」という勤労者のための保養研修所であった。市の事業が費用対効果の面から見直される中で、民間事業所と地域とで協働して福祉に取り組み、将来の福祉のあり方のモデルになるような実践をしたいということから、「浜松福祉協働センターアンサンブル江之島」としてスタートした。実際に事業がはじまったのは7年前だが、「浜松福祉協働センター」についての構想をもちはじめたからだとして10年近くなるのではないだろうか。小羊

学園もこのときに示された「浜松福祉協働センター」のコンセプトに新しい福祉の方向性を感じ、プロポーザルに参加した。

しかし、現実には協働による福祉の展開はなかなか思い通りに進まなかった。どうしても既成の枠の中の発想から抜けきれないところに原因があるように思う。障がいのある人たちへの支援は、本人の意向に沿って、インクルーシブな地域社会の中でなされるべきであるという方向性にある。地域社会の結びつきをベースにして、立場の違う人たちと、それぞれの違いを超えて折り合いつつ、新しい枠組みをつくっていくところで事業展開するということではないかと思っている。

アンサンブル江之島は、鉄筋コンクリート造6階建の建物で、特に昨年の東北の津波以降、遠州浜海岸に近い浜松の南の地域にあっては貴重な建物でもある。地震や津波はある意味インクルーシブである。障がいのある人だけに襲ってくるわけではない。また障がいのある人だけ被災から免除して考えるわけでもない。防災のことを考えても、障がいのある人もない人も一緒に地域で助け合って生きていくことを考えざるを得ない。そのためには、協力、連携、協働による支え合いの社会をつくっていくこと求められる。

施設という枠を超えて、新しい社会福祉の展開を思い描いてみたい。

イエスさまのご降誕を祝して

今年も法人内の各施設でクリスマスをお祝いして、礼拝・祝会が行なわれました。今回は、通所部門で行なわれたクリスマス会を報告します。

小羊デイケアホーム

支援員 半田 磨衣子

☆手づくりクリスマス☆

12月に入るとぬいぐるみのサンタクロースが、天窓からデイケアホームの様子をのぞきにきます。すると利用者もなんだかわくわくし始めます。

デイケアホームでは、毎年手づくりのクリスマスにこだわって、材料集めから始まり、クリスマスリースづくり、飾り用のクッキーづくり、キャンドルたての飾りつけ、プレゼントづくり、クリスマスケーキづくりなどを1ヵ月かけて行います。そして、当日の午前にはケーキを完成させ、12月22日の午後から、参加者39名でクリスマス会が行われました。

礼拝には遠州栄光教会の森田牧師をお招きし、利用者と保護者によるツリーのキャンドルに点火も行いました。

祝会では、そよかせさんによる「とっつこうかひつつこうか」「くまのクリスマス」「あわてんぼうのサンタクロース」のブラックシアターと、三方原ギター同好会の皆さんによる「野に咲く花のように」「ホワイトクリスマス」「花」「きよしこの夜」の4曲のギター

演奏で楽しませていただきました。そして最後に、サンタさんとトナカイさんの登場で、待ちに待ったクリスマスプレゼントです。プレゼントをもらい、開けてみんな大騒ぎ、本当に楽しいクリスマス会となりました。



マルカート・ドルチェ

主任 清川 智彦・杉本 道絵

マルカートでは2ヵ月前ぐらいからクリスマス会の準備を始めます。招待者のプレゼント、当日のお菓子、ケーキ、会場内の装飾等々を日中活動内で準備していきます。活動を通して準備していくことで利用者のみなさんにクリスマス気分をより感じてもらえたらと期待し準備にも熱が入ってしまいま

す。そして迎えた12月22日(木)クリスマス会当日。13時半から招待客含め総勢約60名の方が集まり、和やかにクリスマス会が行われました。

今年の中遠教会の兵藤辰也牧師をお招きし礼拝を行いました。赤や緑に彩られた会場内は讃美歌と共に一気にクリスマスムードにかわります。祝会では恒例の魅惑的倶楽部(エキゾチッククラブ)のショーで空気が一変。歌ったり踊ったり舞台上がったりと皆盛り上がります。お楽しみのプレゼントのコーナーでは法人本部の池谷さんにサンタクロースにふんしてもらい、喜びと笑いに包まれた時間を過ごすことができました。

ドルチェでは、12月23日、親子参加型のクリスマス会を行いました。時間は、11時から13時半までとし、計36人の方が集まりました。場所・飾りなどはすべてマルカートよりお借りし行い、内容としては、キャンドルサービスから始まり、スライドを利用した、クリスマスのお話、職員手作りのカレールイスとマドレーヌの昼食タイム。マドレーヌは、飾り付けができる様にクッキー・苺・チョコ・生クリーム・手作りの旗をつけ、皆さん思い思いに飾り付けをして食べました。お腹が一杯になつてからは、恒例のスライドショー。

その後は、今回初めて、「そよかせ」さんに来て頂きブラックシアターを見させて頂きました。色が鮮やかで子どもたちも釘付けでした。最後はサンタさんからプレゼント(子どもはお菓子・親御さんは、子ども手作りのカレンダー)をもらい短い時間でしたが、楽しいクリスマス会が終了しました。



オリーブの樹・わかな

支援員 伊藤 昭雄

11月頃からクリスマス会の準備が始まり、食堂や休憩室、わかなの活動室が華やかになると、クリスマスを待ち望む利用者の顔が綻びます。そして、利用者それぞれが手作りしたリースが食堂に飾られると、一気にクリスマスムードになりました。

12月22日のクリスマス会は、利用者と職員36名が参加し、浜北教会の佐伯



牧師夫妻による礼拝が行われました。その後、ケーキをおやつにしたティータイムがあり、昼食は待ちに待ったクリスマスランチを、わたかなの10名の子どもたちも入って賑やかにいただきました。

午後は、さらに保護者の皆さんにもご参加いただき、楽しい雰囲気の中で「コリンズハーモニー」さんによるハーモニカの演奏会を聴きました。午後のイベントは、毎年地域で活躍されている方達との交流の場としての意味合いもあります。好きな曲がかかると、前で歌いだす利用者もいて、楽しいひと時を過ごす事ができました。

最後に、サンタが登場して、写真スタンドのプレゼントを貰いました。今回のプレゼントは、行事や作業の中の写真です。この写真を家族で見てください、楽しんでもらいたいと思って選んでみました。

今年、わたかなの活動室ができてから初めてのクリスマス。当日は、わたかなの子どもたちは、終業式だったので

クリスマスランチからの参加でした。活動室ができてから、行事以外ではオリーブの利用者と顔を合わせることも減ってきていますが、クリスマスは、ランチをオリーブの利用者と同じ席で食べたりと、ゆっくり同じ時間を楽しむことができ、小さな子どもたちも、楽しんでる姿が印象的でした。

来年のクリスマス会はどんなイベントが行われるか、今から楽しみですね。

ぱびるす

保育士 齊藤 実香

今回は幼児部のクリスマス会の様子をお伝えします。今年もたくさんのご家族の参加があり、とても賑やかな会になりました。前日にサンタさんから「あそびにいきます」という手紙をもらっていたためワクワクしながら会ですすんでいきます。施設長による礼拝では子どもたちも雰囲気を感じとったようでほとんどのお子さんが心穏やかに参加することができました。お次は「そよかせ」さんによるブラックシアター。部屋を真っ暗にするとキレイに浮かびあがる絵の数々にうっとりする子どもたちでした。そして！と言いたるところですが、待っても待ってもサンタさんが現れない：「よし！皆で魔法をかけよう」と提案し、画用紙で作ったサンタクロスに魔法をかけました。「サンサンサンタクロス！」すると大きなサンタさんが登場したのです。

サンタさんにびっくりするお子さんもいましたが、その後はみんな笑顔でふれあいあそびを楽しみました。

ぱびるすにはケーキやパンのプレゼントも届きました。多くの方に見守られ、子どもたちが育っていくことを幸せに感じます。私たちの思いはただ一つ。お子さんやご家族が愛に包まれ安心して生活できること。そう願った一日となりました。



わたぐも

主任 鈴木 崇之

12月23日わたぐものクリスマス会が行われました。今年度から幼児部も合同で行う会となり、幼児部の卒園児や退園児も参加して保護者の皆さんも合わせ総勢80名以上に賑やかな会にな



りました。礼拝を行い讃美歌を歌うとクリスマスを迎えた実感が湧いてきます。普段とは違う雰囲気を利用者の皆さんも澄ました表情で参加してました。昼食はクリスマスバイキング！今年度はカレー5種を中心にしたエスニック風ランチです。普段味わうことのない味に利用者、保護者の皆さん興味津々でもちろん味も大満足でした。

午後からのイベントは職員による出し物です。練習を重ねたAKB48・マルモリのダンスと楽器演奏。普段見せない職員の風貌や動きにみんな目が釘付けで大笑い？一緒に踊ったりと一体となって楽しい時間を過ごしました。最後はやっぱりサンタクロースの登場です。サンタクロースは忙しいので今回も抽選で選ばれた保護者の方に代理を務めて頂きました。びっくりした顔、うれしそうなお顔、怖がっている顔、堂々とした顔、利用者それぞれの反応を見せてプレゼントをもらっていました。

平成23年度共同募金受配事業報告

施設名 マルカート

(生活介護事業所・浜松市南区)

事業内容 送迎・活動用自動車

(10人乗り1台)

総事業費

2,574,800円

共同募金受配額

1,353,000円

通所施設では朝夕の送迎は欠かせないサービスになっていきます。これまで送迎車両のうち一台は他の事業所から譲り受けた老朽化した車両で対応していました。

このたび共同募金の受配を受けて、新しい車両を購入することができました。

これで安心して利用者の送迎ができます。また日常の活動でも大いに活用したいと思っています。



自立支援法& 児童福祉法の改正間近

平成24年4月から障害者自立支援法および児童福祉法の一部改正が行なわれます。自立支援法ではグループホーム・ケアホームの利用助成(家賃補助・23年10月施行済み)と相談支援体制の強化が図られ、児童福祉法では、児童施設・事業のサービス体系を新体系に一元化することが大きな柱となっています。これにより、法人では委託相談支援事業所の相談実務を見直すこと、知的障害児施設や放課後支援事業所の移行事業の判断などが迫られています。給付費報酬単価など未だ不透明な中で、4月からの運営を模索しなければならず、頭を抱えているところです。

【書籍案内】

東日本大震災を通して問われたこと

「現代日本の危機とキリスト教」東日本大震災緊急シンポジウム

(日本基督教団救援対策本部編、日本キリスト教団出版局、四六版184頁、1,995円(税込) 売上の一部は、日本基督教団が行なっている救援募金に当てられます。)

昨年8月に東京の銀座教会で開催された日本キリスト教団主催の東日本大震災緊急シンポジウムの内容が掲載されています。牧師・教会、神学者、キリスト教主義学校の視点からの発題とともに、キリスト教社会福祉の視点からは、小羊学園の稲松理事長が「苦しみと悲しみに寄り添う」と題した発題し、その内容も掲載されています。

※全国キリスト教関係書店にて発売中。郵送ご希望の方はお手数ですが、静岡聖文舎

(電話:054-264-0264)にご連絡ください。(要送料)



小羊学園を支える会

2011年度寄付金報告

12月受付分	2,344,538円 (177件)
累計	6,062,408円 (350件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座	00800-8-107785
口座名義	社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店	当座預金0107785
口座名義	社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局 (鈴木)
三方原スクエア内 ☎ 053-414-1833

編集後記

正月明けの1月中旬、支援センターわかぎ事務長の小原氏と2度目の被災地訪問に福島・宮城へ出掛けた。今回は繋がりのできた生活介護事業所とケアホームに伺い、震災以降の実情や今後の支援方法について談話させていただいた。南相馬市と気仙沼市に伺い、計3カ所でお話を伺う中で皆さんに共通されたことは、震災以後の実情を共感してほしいと感じたことだった。福島と宮城では被災した内容が違っても、この10ヶ月間のご苦労を考えると、現地の皆さんが自然体で笑える日まで支え続けたいと再考した。まだまだ寒い日が続きます。お身体ご自愛下さい。(F)